

釋シ華天各我所立ニ合シテ取扱ヒセリ達磨家ノ語ニモヨク出ルコト  
 ナリ今家ニハコレヲ眞如實相ノ異名トモ云ヒ又二諦義ニハ般若正法  
 無住ノ三八眼目ノ異名トノ玉フ僧肇ノ寶藏論ニ檢幽七五 九左六行モ此二句ノコ  
 、ロテ述セリ羅什ノ註經ニモ廣ク釋シテアリ從無住本ハ合門般若所  
 照ノ体中ナリ立一切法ハ開門ニ諦滙和不空ノ用中トシルヘシ  
 ○三中假師中コレハ文ノユトク非ノ二句ヲ中トシ而ノ二句ヲ假トス  
 ル大乘師コレヲ着中假師ト貶メテコノ有所得ヲ簡ヒタマフコレカ此  
 一部ノ結ヒ止カリサミシキ結ヒトメナリ龍頭蛇尾ノシリスポミナリ  
 ト思フヘキ處ナレトモ甚サミシカラサル處ソノニギハシキコト言亡  
 慮絶巧妙云云頂戴尊重信受奉行スヘキ此結文ナリ此鈔主ノ深意未註  
 未タ之ヲ辨セスコレヲ得タルモノハ私一人ナリト誇ルヘキ處ヲ誇ル

ナト誠メ玉フ此一文ナリ其故ハ從上ノ明シ來レル次第ナミルヘシ此  
 釋中不同門ニ先外道及有空ノ小乘及大乘攝論師ノ中マテ簡ヒ終リテ  
 義本無住ノ一家ノ正義タル圓中ヲ明シ立歸リテ簡フ處ノ中假師ヲ終  
 ニ出シタハ往クヤラモトルヤラシレヌ次第カヨク明ニ知レテアルハ  
 前八十ノ成假中ノ文ナミルヘシ有無等今モ非有等コレ前ハ名ノコト  
 前四左ノ次第ニシテ成假中ナレト無得ノ正中ナリ今ハ中假師ニテ中  
 ク假中ノ次第ニシテ成假中ナレト無得ノ正中ナリ今ハ中假師ニテ中  
 假ノ次第ハ有所得ノ疵アル中ナリコレ中假師ト指スモノハ與皇ヨリ  
 指シ玉フ處ニシテ大禪寺ノ(禪鐘寺)惠勇法師ト長于寺ノ辨法師トヲ  
 サスコレハ僧詮大師ノ會下ニ四哲アリ惠勇ト辨公ト惠布トノ三人及  
 ヒ與皇ノ法朗大師ナリ爾ルニ止觀大師ノ滅後コノ辨公勇公動モスレ  
 ハ止觀和上ノ義ヲ誤リ説キテ成假中ノ体ヨリ用ヲオコスコトヲ取違

ヘテ中假ノ解ヲナシテ兩來ハ假ナリ兩去ハ中ナリ非有非無兩去ヲ中トシ而有而無兩來ヲ假トスコレ中道宛然タル空ノ上ノ不空ヲ取アヤマリテ中假相並フ名相ニク、ラレタモノ此ニ於テ興皇之ヲ破シテ兩來假ヲナサス兩去中ヲ成セス兩去ハ斷ナリ兩來ハ常ナリコレ斷常二見何ノ中假ナルコトカアラント破シ玉フ唐僧傳興皇ノ傳ニ畧シテ出セリ此カ辦公等ノ中假師且カリニ此義ヲ立テ、却テ興皇ニ功ヲ顯サシムル方便ナリヤ甚面白キ處ニシテコノ中假師ヲ興皇相承ノ鈔主ヨリ取扱フニ且ク許スト嚴シク破スト一門アリ其開許遮破カリソメニモ人情ヨリオコルトハ思フヘカラス悉法門ノ深理也二諦義ニ一往開中假義ト標シテ涅槃經ヲ引テ究竟シテイヘハ假モ亦中ナレハ中ヲ假トスルコトヲ得トコレ上ノ成假中ニ法体中道ニ悟入ノ上ヨリオ

コス用中ノ假ハ空不空相即ノ般若溫和爾ルニ天台ニ所謂觀法雖正着心同邪ノ處ニテ折角八不ヲ以テ拂ヒクテ無住ノ眞理ニカナフノ觀モ又名相ニ着スル中假師トナレハ中道無名相ト云名相ニト、コホルコレヲ今中假師ニヨセテ更ニハラヒキヨメ玉フ中論疏二ニ興皇ノ言ヲ引テ中假師罪重クシテ永ク佛ヲ見スト呵スル言ヲ引キ又皇法師中假ヲタテ、又ソレヲ破スルコトヲ問答シ須破ト云ヒ實不破ト云ヒ若片言ヲモ守ラハ便喪圓意非學三論者ト教誡シ玉フハ全ク中假師ニヨセテ末弟ヲ勸誡シ有所得ノ見アラハタトヒ中假ノ正意ハ得テモ中假ノ眞理ニハカナハヌト遺弟ノ有所得ヲ洗破シ玉フ處ナリソノ中論疏ハ首書ニ引ケリ讀ンテ其深切ヲ知ルヘシ爾レハタトヒ三論ノ法相ハオホエテ八不二諦四假四中四種釋義二轍等心ニ得タリトモ名

目ヲ執シテ無名目ノ眞理ヲ伺ハスンハ學イヨク廣ケレハ倒モイヨク多ノ天狗ノ下拵ヘ若体道達性シテミレハ非道ヲ悟リテ道トス諸佛菩薩ノ内證外用ト同ク内般若八不ノ無尋觀ヲ得外漚和二諦ノ無方辨アリテ摩訶衍摩訶薩ノ境智行說ヲウルコレ一家ノ大宗ヲ學フノ徳トシルヘシ實ニ悟道ヲ本トシ正法タリトモ執ナカラシムル深切誠勸ノ意ヲ含ムニキハシキ惣結ナリ三論立義素本ト首書トノ本如此終ニモ題號アリ已上コノ立義ヲ以テ一家ノ宗意ニ体達シコレヨリ三論ノ疏等ニヨリテイヨク深義ヲ伺ヒ解義悟道シ玉ヘカシ上來恐ヲ願ミス講述淺識ノ上書ニモ乏ク深ク疎漏ノ失ヲ恐ル、ノミ破空品ノ文ハ他日別ニ講スヘシ一部始末魔事ナク滿講

三論立義講述卷下 終

ヨノ三論立義ノ原録ハ、故蓮月院、曉悟師ノ親筆ニシテ、其

寵弟蓮海師

後ニ三河、岡崎、專福寺、贈嗣講、宣忠院師ノ養子トナル、故本多祐護嗣講、是ナリ

コレヲ傳持セラ

レキ、近年屢々、其令嗣弘得氏

專福寺現住

ニ就テ傳寫ヲ請フ者ア

リ、氏固ク藏シテ許サス、然ルニ、小生若年ヨリ、宣忠院和上

ノ門ニ入りテ、久シク親侍シ、且其没後ニハ、祐護師ノ指導

ヲ仰キテ、學路ヲタドレリ、如此、深キ緣故アルニヨリ、切ニ

懇請シテ、遂ニ許諾ヲ得タリ、於爰、速ニ一本ヲ書寫セント

スルニ、原録ハ半葉十六野ノ細字、然モ、其當時、達筆ノ聞エ

アリシ録主力、隨意無方ニ、往々、梵文

彌陀ナリモト書ク類

國字

薩婆多ヲサハタノ類

省字

佛菩薩ヲ仏サノ類

ヲ雜ジヘ、加之、鹿畫ヲ以テ細字ヲ改修シ、圈点

鱗形等、ノ種々ノ符號ヲ以テ、冠註、傍道縱橫無尋ニ添削シ  
又引文ハ、僅ニ五六字ヲ記シテ、數行ノ長文ヲ等シ、或ハ卷  
次丁付ノミヲ擧テ、スヘテ全文ヲ畧ス、コレヲハ、師カ同作  
ノ文例ニ照シ、且當段所辯ノ宗義ニ考ヘテ、之ヲ補充セサ  
ルヘカラス、如此ナレハ、容易ニ筆工ニ委シテ、寫サシメ得  
ヘキニアラス、於爰、小生、決然、自ラ毫ヲ執リテ、半ハ、昨秋安  
居講義ノ餘暇、京師ノ客窓ニ、熱ニ苦シミ、汗ヲ拭ヒツ、之  
ヲ寫シ、半ハ、本年一月、飛驒ノ山房ニ、硯氷ヲ破リ、凍筆ヲ呵  
レテ、務メテ之ヲ記シ、遂ニ全部成功シテ、後、速ニ高倉ニ送  
知ス、學寮、之ヲ傳寫シテ、其實庫ニ藏セラル、然ルニ、頃日、護

法館主、小生寫得ノ本ヲ以テ出版センコトヲ請フ、因リテ  
館主ヨリ交渉シテ、其關係アル諸氏ノ承諾ヲ得セシメ、遂  
ニ原稿ヲ附與スルニ至レリ、然シテ印刷ニ臨ミ、小生、病ニ  
罹リテ、校正十分ナラス、幸ニ大東岩越兩學師ノ援助ヲ仰  
キテ之ヲ完結スルヲ得タリ、因リテ聊傳承ノ由來ヲ記シ  
テ之ヲ卷末ニ附ス

明治四十四年十二月五日

七十老叟 赤松圓純

明治四十五年八月一日印刷  
同年八月十日發行

定價金壹圓

滋賀縣近江國大津市鍛冶屋町七番屋敷  
福賢寺住職

講述者  
相續人

三上明薰

不許複製

京都市下京區下珠數屋町  
東洞院西入橋町八番戶

發行所  
兼印刷者

西村九郎右衛門

發行所

京東六條  
下珠數屋町

西村護法館

妙法院管長園光轍師題字 講師石川了因師題字並參校  
擬講內記龍舟師跋文 四衢鳳千師著 石川富春師校正

十不二門指要鈔講義

活版全三冊 和裝 正價金壹圓五拾錢 郵稅不要

十不二門論は天台第六祖荆溪大師の著、其文簡約なりと雖も本迹十妙を提括し天台觀道の樞要を示せり、指要鈔は四明尊者の撰、山外の邪説を闢き審さに觀道の正義を顯はし以て台教々觀の深立を發揮す苟も指を天台の教觀に染むる者必ず之が研討に従はざるはなし、然るに本論の講録として世に行はる者甚だ乏しきは、夙に學者の憾みとする所也、四衢鳳千師は台宗精通の碩學也殊に其著「指要鈔講義」に於て一世の蘊蓄を披らき以て觀道の要津を説き台學研尋の楷梯に資せらる文義明晰にして又極めて詳細也本論を學ぶの人は絶好の参考用書として一本を購ふべき也

發行所

京都市下珠數屋町

西村護法館

振替口座東京四五九七

香月院深勵講師述

龍山慈影講師校閱

和紙上質全部六冊

# 安樂集講義

正價金參圓 郵税不要

道綽禪師の「安樂集」は概言すれば他力教義の一大要津なりと謂ふ可し其聖道二門の判決、念佛三昧爲要、信心正因の三大綱領より十二大門の分際皆金條にあらざるはなく淨土易行の一門を以て凡夫入報の要路とする旨を明す處ろ洵に時機相應の要路なり加之能く異見邪執を碎破して三經の濫奥を發揮し具さに他力淨土の妙教を闡明せり宗學界の霸王香月院深勵講師夙に「論註」「玄義分」等と相前後して本集を講ずる事年あり而かも本集の講録のみ未だ梓に上らず纔かに傳寫して一部の研鑽者の手に委せられしのみ弊館之を憾みとして這般本集の遺詣最も深き龍山講師に懇屬して懇懃なる校訂を経て世に頒つに至れり宗學界無前の良書として學徒を裨益する事蓋し鮮なからざる可し

京都市下珠數屋町

發行所 西村護法館

振替口座東京四五九七

67  
3  
335

